

Minami Kyushu University Syllabus

シラバス年度	2026年度	開講キャンパス		都城キャンパス		開設学科		子ども教育学科		
科目名称	図画工作演習						授業形態		演習	
科目コード	750078	単位数	1単位	配当学年	3	実務経験教員		○	アクティブ ラーニング	○
担当教員名	吉田 健								ICT活 用	○
授業概要	児童期の造形表現の特質を理解し、豊かな表現を援助するために、指導者に必要とされる基本的な知識や技能を具体的な作品制作を通して学ぶ。パス類、絵具、版画材、粘土などの表現素材を使い、それらの特性を生かした造形表現の楽しさを学ぶ。その体験から子どもに対する援助力を高める。教育現場に生かせるように技術、知識の習熟を図る。子どもへの造形指導の経験値を講師から学ぶことで現場で自身の様々な対応能力が発揮できるようスキルを身に着けるために自主性ある演習として捉えたい。									
関連する科目	図画工作 保育内容指導法（造形表現） 教科教育法（図画工作） 子どもと手作り遊び									
授業の進め方 と方法	この科目は表現（造形表現）の中で、制作演習を中心として行われる。教育現場で実際に役立つ、道具・用具、絵具や紙などについてのノウハウを取得する。演習の中で、感性や感覚を体験する教材を取り上げ、制作への流れを扱う。制作の流れの基本として、テーマ決定、アイデアスケッチ、着色などの一連の流れを体験し、制作の流れを身に付けさせたい。平面、立体、デザインなど幅広い領域を取り扱う。表現（造形表現）の多様な内容を体験する。発想の段階でICTを活用し、幅広い視野で情報収集を行う。写真、動画なども活用し授業の組み立てに役立てる。反省会等での活用をはかる。									
授業計画 【第1回】	オリエンテーション 自己紹介、本授業についての解説									
授業計画 【第2回】	もの作り、実技指導の基本 ・ハサミ、カッター、ペンチなどの道具 ・画用紙、段ボール、粘土などの材料について									
授業計画 【第3回】	絵を描く環境、道具について ・鉛筆、道具材料について ・グラデーション、陰影による立体表現									
授業計画 【第4回】	絵を描く環境、道具について ・水彩画の道具・材料について ・水彩絵の具の特性を知る。混色の実際。									
授業計画 【第5回】	屋外制作（風景スケッチ） ・1 樹木を描く 鉛筆デッサン									
授業計画 【第6回】	屋外制作（風景スケッチ） ・2 樹木を描く 水彩着色 緑の色に注目（黄色プラス青）で無限の緑を									
授業計画 【第7回】	版画制作（道具、材料について） 彫刻刀、パレン、紙、インクなど ・版の種類について 凹凸版 孔版									
授業計画 【第8回】	版画制作：凸版 木版 紙版画 ・簡単な凸版画を制作（紙を素材にして）									
授業計画 【第9回】	版画制作 ・孔版：ステンシルに挑戦。									
授業計画 【第10回】	版画制作：コラグラフィ 1 （混合技法） ・版づくり コラージュ（貼り付け）を中心に									

授業計画 【第11回】	版画制作：コラグラフ2 ・コラージュ～印刷、インク、ローラーの扱い方、プレス機を使って
授業計画 【第12回】	版画制作：コラグラフ3 完成へ ・印刷、インク、ローラーの扱い方、プレス機を使って
授業計画 【第13回】	共同制作（コラージュ制作）1 グループで創作、図柄を決める
授業計画 【第14回】	共同制作（コラージュ制作）2 台紙に紙を貼りこむ
授業計画 【第15回】	作品完成、展示、鑑賞会、演習のまとめ、レポート準備
授業の到達目標	・幼児期、児童期の造形表現の理解と、指導上の観察力と援助力を身に着ける。 ・演習を通して発想力、創作力を高め、授業現場で子どもの理解と指導力の向上を図る。 ・イメージから実際の作品に具体化していくことで、教育現場で身に着けた力を発揮できる技術を磨く。
学位授与の方針 (DP)との関連	1. 知識・理解を応用し活用する能力-(1)／1. 知識・理解を応用し活用する能力-(2)／2. 汎用的技能を応用し活用する能力-(1)／3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(2)／3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(4)
授業時間外学習【予習】	これまで経験した図画工作の内容を想起する。 小学校時代に使用した教科書等を見返す。 道具、材料を確保する。 身近なものをデッサンする。（約1時間程度）
授業時間外学習【復習】	学修した技法などを使い、実際に創作してみる。 身近なものをデッサンする。（約1時間程度）
課題に対する フィードバック	アイデアスケッチからの取り組みの流れを重視する。グループ制作では個人の参加の在り方を実践評価とし個人評価に組み込む。
評価方法・基準	実技課題への取り組み、課題提出の評価、レポートや提出物の採点によって評価 授業中の参加態度40%、提出課題30%、実践レポート30%とする。
テキスト	テキストは使用しないが、必要に応じて参考となる資料を提示する。
参考書	参考資料は抜粋要約してプリントを配布する。 ・『幼稚園教育要領』：文部科学省 『保育所保育指針』：厚生労働省 ・小学校学習指導要領解説 図画工作編：文部科学省
備考	※実技演習ができる服装が望ましい。（準備内容については、事前に予告する。）